

## 祖父と歩いた街 KOBE

京都府 山口 達也

今から40年以上も前の話である。両親が共働きだったため、学校が休みになる時期は京都から灘にある母の実家に行くことが多かった。近くにあった清酒工場の煉瓦の煙突や国鉄の線路沿いから見える六甲山や摩耶山の景色を今でも鮮明に覚えている。健脚だった祖父に連れられ神戸の街をたくさん歩いた。特に祖父が毎朝登る六甲の麓にある一王山へは早朝からよく行った。開店前の商店街や牛乳配達の水筒の音、アジサイの咲く公園。日常の街の風景は幼い日の思い出だった。

そんな神戸の街が震災に襲われた。祖父は幸いにも命に別状はなかったが、家の中は無茶苦茶だった。隣の家も一階が押しつぶされ、見慣れた駅舎は崩れていた。そこはもう自分の知っている神戸の街ではなかった。ショックだった。しかし神戸に住む方々は力強く目の前にある困難に立ち向かおうとしていた。勇気をもらった気がした。

京都に避難した祖父はしばらくして亡くなった。灘の家に戻る思いは叶わなかった。あれから27年、復興していく街並み。大好きな神戸の街が今もまた輝いている。そんな思い出の街神戸をカー杯走り、次代に生きる子ども達に勇気を与えたいと思う。



ランナーエピソード つなぐ～神戸を走る私から被災地へ～



# KOBE MARATHON

## 2022.11.20 SUN